



2024

ノウフク
アワード

NOUFUKU AWARD

ノウフク



「ノウフク・アワード2024に寄せて」

農福連携等応援コンソーシアム

会長 皆川 芳嗣

農福連携等応援コンソーシアム会長の皆川です。2024年は元日の能登半島地震から始まり国内外で様々な事が起こった年でしたが、私たちが進める農福連携にとって画期的な一年となりました。5月には農政の憲法とも言われる食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正され、新たに第46条として農福連携の推進が重要な政策として位置付けられました。また6月には総理官邸で農福連携等推進会議が開催され、「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」が策定されました。2019年に推進ビジョンが策定されてから約5年、官民を挙げた努力が実り農福連携の取組の数は増加していますし、日々の報道等でも農福の関連記事を目にすることが増えたと実感しています。この間農福連携は着実に社会に根付き、関係した人々のウェルビーイング向上に寄与してきました。

しかし社会全体の変化に目を向けてみると、無縁社会の進行や貧困層の増大など農福連携が目指す地域共生社会とは反対方向の動きが強まっているように思えてなりません。また農業についても、酪農家数が全国で一万戸を割り込むなど担い手の減少・高齢化が進んでいます。そこで今回の推進ビジョンでは、農福連携の持つ人々を繋ぐ力と社会を癒す力の一層の發揮に期待して新たなアクションが提示されました。

具体的には「地域で広げる～点的な取組から地域へ」、「未来に広げる～未来の担い手の育成と新たな価値の発信」、「絆を広げる～ユニバーサル農園の拡大と「農」「福」の一層の広がりへ」の三つのスローガンの下、農福連携の取組の数を今後5年で現在の約7,000から12,000に拡大する目標を掲げました。また新たに11月29日が「ノウフクの日」に設定され、同日には総理官邸で内閣官房長官と厚生労働、農林水産、法務、文部科学の4大臣がノウフク・アワード2024のグランプリを受賞した徳島市の(株)菜々屋、宮崎市の(一社)STEP UP等の農福関係者と一緒に「ノウフクの日」を祝うセレモニーが開催されました。

このように2024年は農福連携推進にとって大変重要な年になりました。今回のアワードでも農福連携に対する社会の新しい期待に応える素晴らしい団体が選定されました。是非皆様も受賞者の方々の取組を参考にしていただき、農福連携が目指す地域共生社会創りの一翼を担って頂けると幸いです。

農福連携は社会的連携、包摂に向けた運動として大きなポテンシャルを持っています。日本発のソフトパワーとして更に磨きをかけ積極的に世界にも発信していくうではありませんか。



内閣官房長官

林 芳正

「ノウフク・アワード2024」受賞者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。

私は、2012年の暮れから農林水産大臣を務めさせていただきました。先ほどご挨拶された皆川さんが、当時の事務次官で、当時の副大臣の江藤さんは、今は農林水産大臣ですし、その後、あべ文部科学大臣にも副大臣をやっていただいた事がございました。

農林水産省では、地方農政局長会議というものがありまして、全国の農政局長が東京に来られて本省で報告や会議をいたします。通常、大臣は、自分の挨拶が終わったら、「さっさといなくなれ」と言って追い出されるわけですが、2013年1月の会議だったと思いますが、ちょっと時間がありましたので、「折角だから各局の報告を聞こうじゃないか」と申し上げて、各局から話を聞きました。

すると、結構な数の局から「福祉と農業の連携をやっておられるところがその地域にある」ということをお聞きまして、「これはおもしろいのではないか」ということで、皆川次官や江藤副大臣と相談して「これは政策として推進していく」と決めました。

2015年には、当時の塙崎厚生労働大臣と二人で、農林水産省の中庭で「農福連携マルシェ」を開催し、それ以降、攻めの農業の一つとして取組を進めてきました。

こうした中、全国で農福連携に取り組む主体数は、2019年度からの4年間で3,000件ほど増加し、2023年度末には約7,100件まで増加しました。

現在、官房長官として、「農福連携等推進会議」の議長を務めさせていただいているが、昨年6月には、2030年度までにこの取組主体を12,000件以上にすることを定めた新たなビジョンを策定し、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」という3本柱で各種の施策を進めることにしました。

本日、受賞された22の団体の皆様は、まさに新たなビジョンに掲げる3本柱に沿って、日々現場で懸命に取り組まれている皆様であり、改めて敬意を表したいと思います。

昨年11月29日は、新たなビジョンに基づき制定された初めての「ノウフクの日」であり、今回、グランプリに輝いた「菜々屋」さんと「STEP UP」さんに官邸にお越しいただきました。農業法人と福祉事業所で地域の課題に懸命に挑戦しているお話や、農業を通じて皆さんのが安心して働けるように努力していくお話をなど、直接生の声を伺うことができ、改めて農福連携の取組を政府一体となって進めていく意義を感じました。

今後とも、農福連携が全国各地に広がるよう、厚生労働省、農林水産省が中心となり、法務省、文科省とともに、農福連携を一層推進してまいります。

結びに、本日お集まりの皆様の益々の御活躍と、農福連携がさらに盛り上がっていきことを祈念しまして、私の挨拶といたします。

(令和7年1月22日「ノウフク・アワード2024」表彰式における林官房長官ビデオメッセージより)

**農林水産大臣
江藤 拓**



「ノウフク・アワード2024」受賞者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。農福連携は、障害者の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組です。また、障害者の皆様のみならず、社会的に支援が必要な、様々な方々の、社会参画や、立ち直り支援に向けた取組にも広がっています。今後、農村地域では、人口の減少や高齢化が、急激に進行することが見込まれる中で、農福連携の取組により、皆様が、日本の食や地域を支える、貴重な働き手となっていただくことを、期待しております。今回、グランプリを受賞された、徳島県徳島市の「株式会社菜々屋」は、農業法人4社が共同して、障害者就労施設を立ち上げ、県内全域の農家に障害者を派遣し、地域の農家の経営効率化や、規模拡大に貢献しています。同じくグランプリを受賞された、宮崎県宮崎市の「一般社団法人STEP UP」は、障害者就労施設が農業生産法人を立ち上げ、障害者・刑務所出所者の、就労を支援するとともに、認定農業者として、地域農業の重要な担い手にもなっています。さらに、準グランプリ、優秀賞、フレッシュ賞、チャレンジ賞を含めて計22団体が受賞されました。今回受賞された、いずれの取組も、障害者の皆様を始めとする、多様な方々の社会参画と、地域農業の振興に資する、素晴らしい取組であり、心から敬意を表します。

昨年改正された、「食料・農業・農村基本法」では、農福連携の推進が、初めて位置づけられました。農林水産省としても、農福連携の取組が、地域にますます広がっていくよう、全力で取り組んでまいります。結びに、本日御参集の皆様の、益々の御活躍と、農福連携の取組の更なる発展を、祈念申し上げまして、私の挨拶といたします。

**厚生労働大臣
福岡 資麿**



「ノウフク・アワード2024」表彰式の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。
まず、ノウフク・アワード2024の各賞を受賞された皆様に、心よりお慶び申し上げるとともに、農福連携を通じて、障害のある方の社会参加の推進にご尽力されてきたご功績に、深く敬意を表します。また、受賞者の皆様をはじめ、関係する皆様方の熱意ある活動が、障害のある方の生活を豊かにする上で大きな役割を果たしてきたことに、改めて感謝申し上げます。

近年、農福連携は、障害のある方をはじめ、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある方といった働きづらさや生きづらさを感じている方々が、農業を通じてそれぞれのペースで働くことができるなど、就労や社会参画の場として広がりを見せています。今回受賞された皆様の取組を拝見しますと、障害者就労支援施設と農協が連携し、県内全域の農家で施設外就労を行うものや、独自のマニュアル作成によりマッチング支援を行うものといった、素晴らしい取組が全国各地で生まれています。さらには、地元漁師と連携した取組や伝統工芸を活用した商品開発など、様々な工夫により工賃向上を実現されており、農福連携の多様さと可能性を感じております。厚生労働省としては、農福連携を通じて、障害のある方の賃金・工賃の向上や社会参画の促進に繋がるよう、農業従事者をはじめとする関係者の皆様と連携し、障害の有無にかかわらず、人と人がつながり支え合う地域共生社会を実現してまいります。結びになりますが、皆様の益々の御活躍と御健勝を心より祈念し、私の挨拶といたします。

法務大臣

鈴木 馨祐



このたび、「ノウフク・アワード2024」を受賞された皆様、誠におめでとうございます。農福連携を通じて、地域で働きづらさや生きづらさを感じている方にやりがい・生きがいを生み出していただいている皆様に、心から感謝を申し上げ、敬意を表します。今回受賞された皆様の中には、罪を犯した人の立ち直りに御支援いただいている方もいらっしゃると伺っております。罪を犯した人が立ち直り、その再犯を防止するためには、法務省だけではなく、関係省庁や地方公共団体、そして、民間の方々と連携した取組が必要不可欠です。政府が取り組む再犯防止に関する施策を定めた「第二次再犯防止推進計画」が、令和5年3月に閣議決定されました。そこには、農福連携に取り組む皆様との連携を推進することが掲げられています。

法務省としては、矯正施設や保護観察所において、罪を犯した人が農業を通じて立ち直るための取組を充実させるなど、全力で、その支援に取り組み、「誰一人取り残さない」社会の実現に努めてまいります。本日お集まりの皆様におかれましても、引き続き、お力添えを賜りますよう、改めてお願ひ申し上げます。結びに、農福連携に取り組む皆様の益々の御活躍と、御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

文部科学大臣

あべ 俊子



この度、「ノウフク・アワード2024」の各賞を受賞されました「埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園」並びに「岐阜県立岐阜本巣特別支援学校」の皆様、本日は誠におめでとうございます。今回の受賞は、両校において、地域の企業などと連携しながら、学校で生産した農作物を使った商品開発に取り組まれるなど、先生方の熱心な指導や生徒たちの真摯な取組が結実したものと考えています。

文部科学省におきましても、これからも特別支援学校における農福連携の取組をしっかりと応援してまいります。本日受賞された皆様方におかれましても、取組を更に発展させ、障害のある方々の社会参画が一層充実するよう、御尽力いただくことを御期待申し上げたいと思います。本日は、誠におめでとうございます。



一般社団法人 日本経済団体連合会
農業活性化委員長

中田 誠司



一般社団法人 日本経済団体連合会
農業活性化委員長

磯崎 功典



「ノウフク・アワード2024」を受賞された皆様、誠におめでとうございます。受賞団体の皆様のご功績に心より敬意を表します。これを機に活動の意欲を一層高められるとともに、全国へ好事例を展開していただければ、主催者の一員として大変嬉しく思います。

さて、経団連も参画する農福連携等推進会議が昨年6月に取りまとめた「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」では、取り組みのさらなる促進に向けて、2030年度末までに、農福連携等に取り組む主体数を12,000以上、地域協議会に参加する市町村数を200以上にすることなどを目標として掲げています。今年度のアワードでは、全国から過去最多に並ぶ205団体からの応募に加え、社会福祉法人や企業だけでなく、特別支援学校や地方自治体も受賞されました。地域共生社会の実現に向けた活動の一層の拡大とともに、ビジョンの達成につながる着実な一步として、大変嬉しく感じております。農福連携等が今後も深化することで、障害を持つ方だけでなく社会的に支援が必要な方々の社会参画への支援が活発になり、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」先進的で模範的な事例が数多く生まれることを大いに期待しております。

経団連は、農福連携等応援コンソーシアムの幹事として、企業への農福連携等の周知・啓発活動に引き続き取り組んでまいります。受賞団体の皆様のさらなるご活躍と、農福連携の一層の発展を心より祈念いたしまして、お祝いのご挨拶をいたします。

一般社団法人 全国農業協同組合中央会
代表理事長
山野 徹



「ノウフク・アワード2024」においてグランプリを受賞された2団体をはじめ各賞を受賞された全22団体の皆さま、誠におめでとうございます。

また、各団体の取り組みを応援してくださった地方自治体や福祉関係の皆様、そして、障がい者のご家族の皆様など、すべての関係者の皆様に、心からお祝いと敬意を表します。

私どもJAグループでは、組織理念である「JA綱領」において、「環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。」と定めております。この理念の実現に向けて、農福連携もその取り組みの一つとして位置づけ、現在、多くのJAにおいて、取り組みをすすめているところです。

JAグループが主体となる取り組みとしては、JAぎふの特例子会社「株式会社JAぎふはっぴいまるけ」が優秀賞を、「JAちば東葛」がフレッシュ賞を受賞されました。また、グランプリを受賞された株式会社菜々屋様の取り組みをはじめ、他の表彰団体様の取り組みにおいても、JAグループが連携先として地域の実態に即したご支援をさせていただいているものがございました。組織理念を具現化する取り組みを、こうして評価いただいたことは、全国各地で農福連携に取り組むJAにとって、大変励みになるものと思います。

農福連携の取り組みが、今後、ますます広がっていくことを祈念いたします。

ノウフク・アワードとは

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体等・企業や個人（以下「団体等」という。）を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものです。こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に初めて開催され、今年度で5回目となります。

●審査方法

審査委員会において、「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」という3つの視点から総合的に審査を行い、90点満点で評価して各賞の選定を行いました。

「グランプリ」…今回のアワードで優秀賞に選定されたもの及びこれまでのアワードにおいて優秀賞以上（グランプリを除く）を受賞し、かつ、今回のアワードにおいても応募があつたものの中から最も優れた取組を選定。

「準グランプリ」…今回のアワードで優秀賞に選定されたものの中から審査基準における「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」のそれぞれの視点において特に優れているものを各1点選定。

●審査委員紹介



中嶋 康博 委員長

東京大学大学院
農学生命科学研究科 教授



濱田 健司

東海大学
文理融合学部経営学科 教授



松森 果林

聞こえる世界と聞こえない世界を
つなぐユニバーサルデザインアドバイザー



村木 厚子

全国社会福祉協議会 会長



米田 雅子

東京科学大学
環境・社会理工学院 特任教授

農福連携等応援コンソーシアム

●設立の経緯

2019年6月に農福連携等推進会議（議長：内閣官房長官）において決定された「農福連携等推進ビジョン」に提起されている課題の1つ「農福連携が広がっていかない」に対応するため、2020年3月に農福連携を全国的に広く展開させ、各地域において農福連携が定着していくことを目指して「農福連携等応援コンソーシアム」が設立されました。

このコンソーシアムは、全国初の官民連携ノウフク応援団として、国・地方公共団体、関係団体等や、経済界や消費者、さらには学識経験者等の様々な関係者を巻き込んで、国民的運動として農福連携等を応援する組織であり、2025年2月現在、597の会員がその趣旨に賛同し、活動の幅を広げています。

●農福連携等応援コンソーシアムへの参加

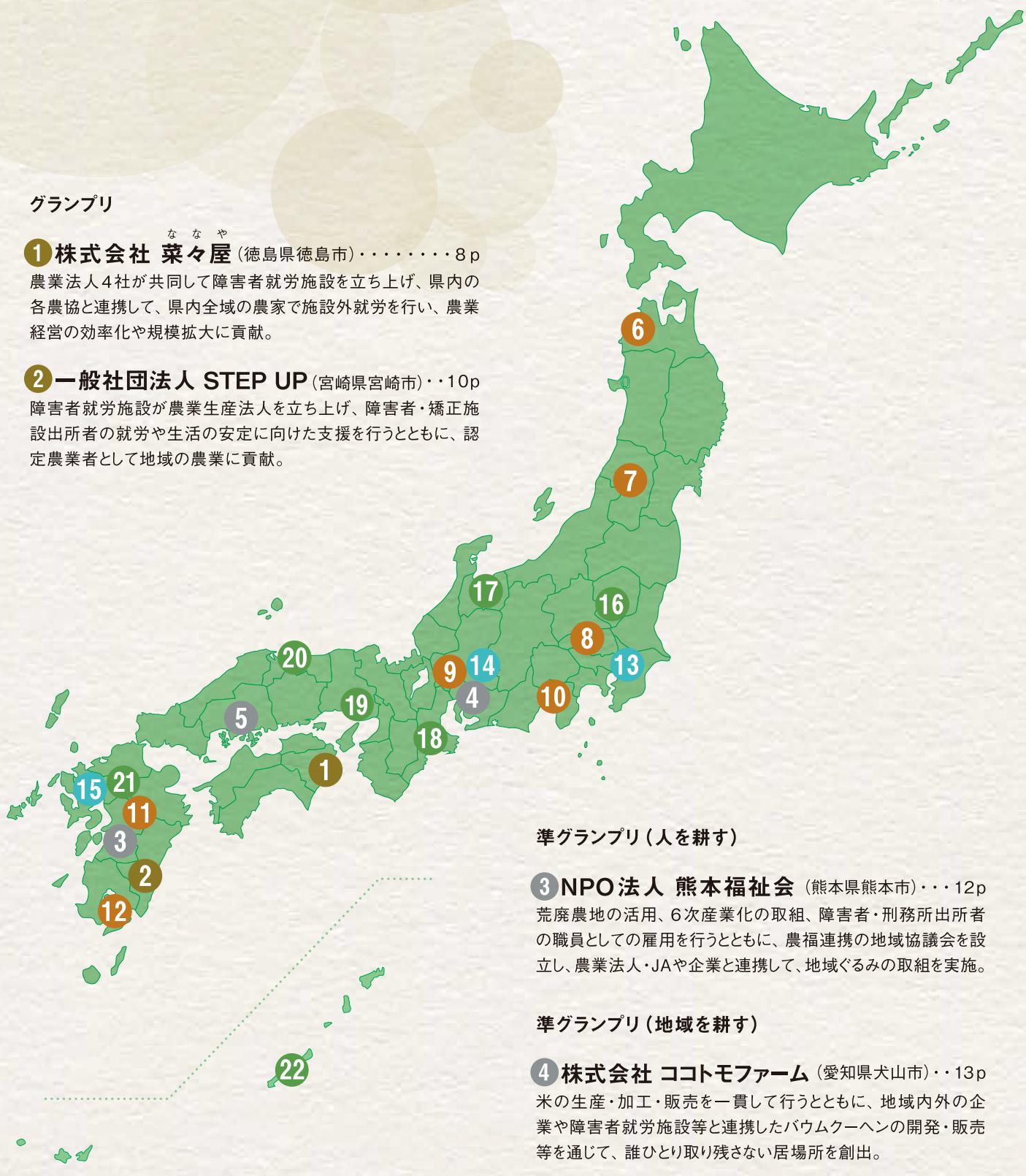
コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、当コンソーシアムの趣旨に賛同し、ご参画いただける企業や団体の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会に取組の輪の拡大に向けて、皆様の入会をお待ちしています。

●農福連携等応援コンソーシアムについて
<https://noufuku.jp/consortium>
農福連携等応援コンソーシアムの規約
入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードできます。



「ノウフク・アワード2024」表彰22団体



優秀賞

⑥ 青森県弘前市 ······ 15 p

農業者と障害者等のマッチングに取り組み、独自のマニュアルや支援制度等を整備。不登校傾向等のある児童や特別支援学校の生徒向けの農業体験も実施。

⑦ 株式会社 バラの学校<ナカイローズファーム>

(山形県村山市) ······ 16 p

除草剤を使用せず無化学肥料で食用バラを栽培し、施設外就労を活用して生産規模を拡大し、花きで初となるノウフクJASを取得。農福連携に取り組む食用バラ農家の育成を実施。

⑧ 埼玉県立特別支援学校 羽生ふじ高等学園

(埼玉県羽生市) ······ 17 p

農業コースの生徒が農業者の指導による農産物の生産、企業等との連携による新商品の開発・販売を通じて、農業への知識・技能を深め、社会に貢献できる人材育成をめざす取組を実施。

⑨ 株式会社 JAぎふはっぴいまるけ

(岐阜県岐阜市) ······ 18 p

JAぎふの特例子会社として、荒廃農地での農業再生に向けた取組、ユニバーサル体験農園の実施、地元企業と連携した特産品の開発などで地域に貢献。

⑩ 社会福祉法人 ステップ・ワン

(静岡県御殿場市) ······ 19 p

障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。地域のスーパーとの取引拡大により、第2農場を建設するなど規模拡大を実現。

⑪ 社会福祉法人 小国町社会福祉協議会

(熊本県小国町) ······ 20 p

荒廃農地を活用した大豆栽培、豆腐製造、おからを餌にした養鶏事業、食肉加工、直売所やレストランの運営等の多角化により、障害特性に応じて働く場を創出。

⑫ 竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践

(鹿児島県大崎町) ······ 21 p

障害者就労施設、加工業者等が連携し、地域の高齢者や障害者が放置竹林の整備や竹炭の製造を行うモデルを創出。竹炭を土壤改良材として活用したサツマイモの加工により収益化を実現。

フレッシュ賞

⑬ ちば東葛 農業協同組合 (千葉県柏市) ······ 22 p

組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。JAの部会で初となるノウフクJASを取得。

⑭ 岐阜県立 岐阜本巣特別支援学校

(岐阜県岐阜市) ······ 23 p

農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、生徒が栽培しやすい特色のある「ルビー色の蕎麦」や「イタリア野菜」を生産。

⑮ 佐賀県 ······ 24 p

農業者と障害者就労施設のマッチングやその後のフォローにより農福連携が県全域に拡大。農業者の理解促進やマッチングマニュアルの作成により中間支援の質を向上。

チャレンジ賞

⑯ 社会福祉法人 めぶき会 (栃木県小山市) ······ 25 p

観光農園を営むグループ企業のいちご栽培を請け負うとともに、自社のキッチンカーやクレープ店での活用により、高収益を実現。

⑰ 社会福祉法人 フォーレスト八尾会おわらの里

(富山県富山市) ······ 26 p

地域に伝わる桑栽培のリブランディングとして、伝統工芸である和紙のパッケージによる商品開発、剪定枝のバイオマスプラスチック化等により工賃を向上。

⑯ 株式会社 ケアプロフェッショナル

(三重県伊勢市) ······ 27 p

放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参画できる場として農業参入。ワイン専用欧洲ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

⑯ 社会福祉法人 上野丘さつき会 (兵庫県神戸市) ······ 28 p

1981年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・竹出し等も実施。

⑯ NPO法人 ライヴ (鳥取県米子市) ······ 29 p

地元漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。作業請負からの転換で工賃向上を実現。製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。

㉑ 社会福祉法人 ハイジ福祉会 フラワーパッケージセンター

(福岡県八女市) ······ 30 p

JAの部会との委託契約により花きのパッケージセンターを運営し、地域農業の維持・発展に貢献。認定農業者となり自社生産も実施。

㉒ 株式会社 沖縄UKAMI養蚕

(沖縄県今帰仁村) ······ 31 p

荒廃農地や廃校を活用し、沖縄エリ蚕の大規模養蚕を実施。繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、スキンケア用品への加工や輸出等により工賃を向上。



ななや
株式会社 菜々屋
(徳島県徳島市)



**農業法人4社が共同して障害者就労施設を立ち上げ、
県内の各JAと連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、
農業経営の効率化や規模拡大に貢献。**

概要

成 果

人を耕す

- 様々な農業現場での作業を通じて障害者が社会性を育み、一般就労を目指せるよう支援し、これまで41名が農業法人、JA等に一般就労。
- 農場長として働いていた障害者が露地野菜の農家として独立し、その後のサポートも実施。
- 障害者就労施設の利用者に対して、体力や特性に合わせて農作業を細分化するとともに、評価書(アセスメントシート)による評価を実施。利用者が安全に作業できるよう体調管理にも配慮。

地域を耕す

- 新規就農者や規模拡大を目指す農業法人から作業を受託して、障害者が収穫、徳島県のブランドさつまいも「なると金時」のパック詰め等を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。
- 中山間地での「すだち」の収穫支援により、人手不足の解消に貢献。

未来を耕す

- 農業経営者ならではの知見を活かして、地域の様々な作物に関する作業委託に対して、作業の細分化と年間スケジュールの作成により、農福連携が円滑に実施できる仕組みづくりを実施。
- 障害者がコンバインによる収穫作業を行うなど、新たな技術習得にもチャレンジ。
- 特別支援学校での農業体験授業や地域貢献活動としてボランティアや農産物の販売を実施。

基本情報

設立:H24年

農福連携取組開始:H27年

取得認証等:JGAP

主力商品:(農作物)こまつな、ちんげんさい、なす、レタス 等

特徴的な取組:スマート農業





株式会社菜々屋

代表取締役 松原 克浩

この度は、グランプリを受賞させていただき、誠にありがとうございます。

私たちは「ノウフクは人の和」だと思っています。

農業の作業は、暑いな、寒いな、重いな、遠いな、大変な作業ばかりです。それでも日々一生懸命、徳島県全域で頑張ってくれる人たちがいてノウフクの取組は形を成しています。

長靴をはいて元気よく作業に向かう障がい者や、それを見守るスタッフのみんな、このチームの仲間達に加え、ノウフクの取組を理解して、ご協力いただいた県内の生産者、全農とくしまや各エリアのJAの皆様、行政の方々や、そのほかにもたくさんの方々の「ノウフクに対する理解と思い」でいただいた栄誉だと思い、御礼申し上げます。

株式会社菜々屋は、4つの農業法人と福祉事業所で、農業者の高齢化、新規就農者の育成や資材高騰など農業の課題に挑戦し解決していく会社です。山林の多い徳島県においては中山間地問題が県ブランドの「すだち」に影響しています。「人の和、つながり」でこれからも未来に向かっていきます。

各地域だけではなく、日本中で障がい者が農業の最前線で輝ける環境をつくりあげることがみんなで向かっていきたい「ノウフクのゴール」だと思います。これからも、未来に向かってチーム一丸となっていっそうの努力を重ねていこうと思っております。

この度は誠にありがとうございます。



一般社団法人 STEP UP

(宮崎県宮崎市)



**障害者就労施設が農業生産法人を立ち上げ、障害者・矯正施設出所者の就労や
生活の安定に向けた支援を行うとともに、
認定農業者として地域の農業に貢献。**

概要

成 果

人を耕す

- 障害者がピアサポーターとして一般就労し、自らの経験を活かして障害者のサポートを実施。
 - 公認心理師を配置し、矯正施設出所者を受け入れ、居場所作りを支援。
 - CoCoRoグループ*の一般社団法人誠樹会が運営する放課後等デイサービスの児童が農作業を手伝い、大人と子どもの相互理解が進展。
- *STEP UPに加え、誠樹会、CoCoRoファームを含むグループ。

地域を耕す

- 収穫時には、近隣農家等に人材を派遣し、人手不足の解消に貢献。
- CoCoRoファームは認定農業者として、地域の生産部会にも参加し、地域の農業に貢献。
- 中山間地域の荒廃農地を積極的に借り入れ、水田面積は5年で30aから380aに増加。
- 地域の農業高校や大学を対象に、農福連携の現場研修を実施。

未来を耕す

- 障害者や矯正施設出所者が農産物の生産行程のすべてに関わり、就労訓練をすることにより、一般就労を実現するとともに、矯正施設出所者の社会復帰を支援。
- 日本財団の「職親プロジェクト」に参加し、矯正施設在所者に農業の選択肢を発信。

- 矯正施設出所者を10名受け入れるとともに、障害者を含めて3名が一般就労(R5)。
- 農地面積は70a(H28)から450a(R5)へ拡大。
- 地域のスーパーや飲食店に農産物を納品し、農福連携のパネルと共に陳列されるなど、農福連携の普及に寄与。
- 宮崎刑務所の農福連携意見交換会に出席するとともに、宮崎少年鑑別所及び小倉少年鑑別支所で開催された地域援助推進協議会において講師として農福連携に関する講演を実施するなど、矯正施設出所者が地域で活躍できる人材であることを発信。

基 本 情 報

設立:H24年

農福連携取組開始:H28年

取得認証等:認定農業者、ノウフクJAS(農業生産法人CoCoRoファーム)

主力商品:(農作物)ズッキーニ、なす、ミニトマト、米 等





一般社団法人 STEP UP

代表理事 堀川 佳恵

この度は、グランプリを受賞させていただき、誠にありがとうございます。

私は、2012年に教え子の居場所を作りたいとの思いから、当法人を立ち上げ、障がいある方と共に生きていこうと決めました。当初は経験も知識もなかった私でしたので、失敗ばかりで何度も涙を流してきました。それでも多くの方の助けがあり、自分でも運がよく、人の出会いがいいと感じてきた12年間でした。2016年の農業生産法人立ち上げ、2019年のノウフクJAS取得、2020年の農水省の農山漁村振興交付金の活用での作業場・加工場の新設など、自分の力では出来ない多くのご支援を頂きました。

改めて、感謝申し上げます。ありがとうございました。

当法人では、「生きていくこと・働いていくこと」をテーマに関連企業も含めて80名近くの障がいのある方、児童、矯正施設出所者の方を支援しています。また、2024年度からは、矯正施設出所者の更生を目的とする日本財団の「職親プロジェクト」にも加盟し、第1号の方の自立準備ホームへの入所がありました。12月から、就労を始めました。彼らが、生きていくのも働いていくのも、決して楽なことではないと感じながら支援しておりますが「農業を通じて、皆が安心して働き、生活していくようにこれからも職員・利用者さんと一緒に努力していきます」と宣言させていただき、お礼の言葉にかえさせていただきます。

この度は、本当にありがとうございました。



NPO法人 熊本福祉会

(熊本県熊本市)



荒廃農地の活用、6次産業化の取組、障害者・刑務所出所者の職員としての雇用を行うとともに、農福連携の地域協議会を設立し、農業法人・JAや企業と連携して、地域ぐるみの取組を実施。

概要

成 果

人を耕す

- 障害者が草刈り機等を使用する時には、当初は職員がそばで支援・指導等を行っていたが、日々の修練により、単独での作業を実現。また、気候が良い時期には「ごろりTIME」を設けるなど、作業時における健康管理にも留意。
- 福岡矯正管区と連携し、刑務所出所者を職員に採用するほか、利用者、出所者等も職員として採用し、様々な障害を持つ仲間と、笑顔で偏見のない職場環境を実現。

地域を耕す

- 他県の農福連携に取り組む事業者との連携で、きくいもの栽培・販売を始め、地元スーパー、青果企業等の安定した新たな販路を確保。
- 農福連携に係るイベントのほか、地元のお祭り等、地域のイベントに参加。

未来を耕す

- 自社農場で生産した野菜を使用した「モッちゃん水餃子」を地元のアナウンサーや中華料理店とのコラボで開発。地域や福岡の百貨店へ出店。
- 熊本福祉会が発起人となり、「熊本県農福連携協議会」を設立。地域の農福連携の普及拡大を目指し、第一生命、JA、熊本県農業法人協会等と連携。

- 就労継続支援A型事業所の平均賃金月額は、取組開始当初69,763円/人(H30:9名)から84,895円/人(R5:14名)へ増加。
- 農産物の売上高は取組開始当初の1,122千円(H30)から18,520千円(R5)へ増加。
- 農地面積は20a(R4)から70a(R5)へ増加。
- 農業を通じた就労支援により、業績が向上した結果、就労継続支援A型事業所利用者をR3年に3名、R5年に1名を職員として雇用。現在は農業のエキスパートとして活躍。
- ほ場はすべて点在するかつての休耕地・荒廃農地であり、地域の農業拡大に寄与。
- 県内の大学と連携し、規格外野菜を活用した子ども食堂への食事提供を実施。

基本情報

設立:H28年

農福連携取組開始:H28年

主力商品:(農作物)だいこん、じゃがいも、たまねぎ、きくいも 等
(加工品)水餃子



株式会社 ココトモファーム

(愛知県犬山市)



**米の生産・加工・販売を一貫して行うとともに、
地域内外の企業や障害者就労施設等と連携したバウムクーヘンの開発・
販売等を通じて、誰ひとり取り残さない居場所を創出。**

概要

人を耕す

- 米の生産・加工・販売、バウムクーヘンの加工・販売等を通じて、45名(R5年度)の障害者の働く場を創出。
- 社内に職場適応援助者養成研修受講者2名、精神・発達障害者しごとセンター養成講座受講者1名を配置し、個々の障害者の能力や適性に応じた作業選定等を実施。

地域を耕す

- 農福連携を通じて地域の農家との交流が深まり、地域の要望に応える形で荒廃農地を再生し、農地面積を拡大。
- 犬山市の農業委員や愛知県農村生活アドバイザーとして地域農業の発展に貢献。

未来を耕す

- ドローンによる圃場管理や肥料散布を実施。子ども向けの自動走行田植え機の試乗イベントの開催等、スマート農業を体験できる取組を実施。
- 持続可能な農業の形を実現する4社合同プロジェクトとして、マイナビ農業、ノウタス、アグベル(ぶどう農家)、ココトモファームで商品開発を行い、全国に発信。

成 果

- 正社員である障害者の平均賃金月額は、180千円(R2)から210千円(R5)に増加。
- アルバイトを含む障害者雇用数(直接雇用)は、2人(R2)から11人(R5)に増加。
- 売上高は、32,802千円(R2)から426,575千円(R5)に増加。
- 農地面積は、8.2ha(R2)から8.7ha(R5)に増加。
- 施設外就労で受け入れていた障害者のうち、2名を正社員として雇用。
- 直売所やカフェの来店者は年間約22.7万人(R5年度)。海外からの訪問客も増加。
- 農福連携や6次産業化の取組の見学を多数受入れ(R5年度は120組)。韓国からの農業研修の受入れも実施。
- 全国の福祉施設等へ講演会を実施(R5は40回)。
- 岐阜県の企業と6次化商品を開発し、累計5,300個販売。

基本情報

設立:R元年

農福連携取組開始:R元年

取得認証等:認定農業者

主力商品:(農作物)米 (加工品)米粉バウムクーヘン

特徴的な取組:スマート農業



◀ホームページ

はってんどう 株式会社 八天堂ファーム

(広島県三原市)



**障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、
果樹栽培、他の事業者の農福連携商品も含めた商品開発、加工・販売など、
「商工農福連携」を目指した取組を実施。**

概要

成 果

人を耕す

- 生活困窮者には県の最低賃金以上の給与を支払い、自立支援を図るほか、特性に応じた働き方を提供し、多様な支援環境を整備。
- 宗越福祉会、広島県立黒瀬高校、八天堂ファームで協定を締結。生活困窮者の予備軍である若者には教育の場を提供し、農福連携の人材創出を目指す活動をR5年から開始。

地域を耕す

- R4年から地域のスーパーでぶどう販売を開始。収穫量は4,000房(R3)から14,000房(R6)に増加し、R6年は4つのスーパーで販売。
- 地域の高齢者の雇用、障害者による選果や包装のほか、県立三原特別支援学校との商品開発や、高校生のボランティアの受け入れも実施。

未来を耕す

- 「ノウフクの理念の啓蒙・共生社会の実現」を目指し、岡山県や岐阜県の事業者の農福連携商品を活用してジャムや「くりーむパン」を開発し、商品開発や販路拡大に取り組む。ノウフクJASを取得。
- R6年に広島県と3市(三原市、竹原市、東広島市)と連携して、「農福コンソーシアムひろしま」を立上げ。

- 年間を通じて安定して仕事ができる体制を構築しており、障害者等の賃金は時給900円(R3)から時給1,020円(R6)に増加。
- 「農福コンソーシアムひろしま」には7事業者が加盟。
- 耕作放棄された81.29a(R5)のぶどう園を受け継ぎ、農地の維持に貢献。
- 農作業には4人(R6)の障害者が従事。
- ひきこもりの状態にある者がほ場での勤務をきっかけに運転免許を取得するなど、行動が変化。
- 農福連携商品を活用した「バターサンドウィッチ」を開発し、「ナチュラルローソン」で販売されるなど、積極的に販路を開拓。

基本情報

設立:R4年

農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS

主力商品:(農作物)ぶどう、いちじく

(加工品)くりーむパン、バターサンドウィッチ

特徴的な取組:環境保全型農業



青森県弘前市



**農業者と障害者等のマッチングに取り組み、
独自のマニュアルや支援制度等を整備。**

不登校傾向等にある児童生徒や特別支援学校の生徒向けの農業体験も実施。

概要

人を耕す

- 農業者から作業の留意点や細分化の内容を聞き取り、R5年度に独自の「農福連携実践マニュアル」を作成。りんご作業16項目について、農業者が作業依頼する際のアドバイス等を掲載したほか、作業細分化により、障害者が従事可能な作業を整理。
- 農作業に引率する支援員には、農作業の指示だけでなく、安全管理等が適切に行われるよう指導。

地域を耕す

- 農福連携の普及のため、市独自の支援制度として、R5年度から新たに農福連携に取り組む農業者を支援する「お試しノウフク」、障害者の農作業の様子や受け入れの工夫を発信する「シェアノウフク」、特別支援学校の生徒に対する農作業体験を実施。
- R6年度からは新たに不登校傾向にある児童生徒に対する農作業体験を実施。

未来を耕す

- マニュアル作成などの取組が注目され、県内外からの行政関係者や大学等の視察が増加。併せて、県主催の研修会などに講師として招かれる機会も増加。
- 室内でりんごの袋掛けを練習できるキットを福祉事業者へ貸し出しており、事前練習により心理的負担の軽減につながっていると好評を得ている。

成 果

- 農作業に関わった障害者の年間のべ人数は、24人(R元)から2,426人(R5)に増加。
- 市の補助事業を活用し、農福連携で実施した作物数は1種類(R元)から7種類(R5)に、りんごの摘果やピーマンの収穫等の作業内容は1種類(R元)から31種類(R5)に増加。
- 支援制度を活用して農福連携に取り組んだ農業者はのべ60名となり、事業終了後も短期雇用を継続しており、農家2戸が障害者計4名を常時雇用。
- 農福連携の推進により、障害者が作業しやすいよう、新たに加工用りんごのほ場を整備する農業者や、省力樹形である高密植栽培を行うほ場での作業を依頼する農業者もいる。
- 市内農業者が市外の福祉事業者と連携するなど、地域外とのつながりを創出。
- 障害者がりんごの栽培からジュースのラベル貼り、販売まで携わるなど、6次産業化の事例も確認。

基本情報

農福連携取組開始: R元年

取得認証等: SDGs未来都市

主力商品: (農作物)りんご、ピーマン、トマト、ミニトマト、落花生、えだまめ、にんにく

特徴的な取組: 中間支援



◀ホームページ

株式会社 バラの学校〈ナカイローズファーム〉

(山形県村山市)



**除草剤を使用せず無化学肥料で食用バラを栽培し、
施設外就労を活用して生産規模を拡大し、花きとして初となるノウフクJASを取得。
農福連携に取り組む食用バラ農家の育成を実施。**

概要

成果

人を耕す

- 障害者のスキルアップにより、工賃が時給換算で前年比10%増になり、就労継続支援B型事業所への平均月間支払額も114,951円に上昇。
- スマート農業等の機械操作や、安全管理の講習会を実施し、障害者が機械作業で活躍。作業ごとにリーダーが出るなど技術が向上。

地域を耕す

- 地域農業の担い手として研修会に登壇し、施設外就労の受入れにより規模拡大したことを発信。
- 特別支援学校からの実習生の受入れを実施。
- 村山市で農福連携が広がり、障害者の受入れが進む。

未来を耕す

- 除草剤を使用せず無化学肥料での食用バラの栽培を開始。施設外就労により、障害者が90%以上の農作業を担い、経営が安定。
- 食用バラ農家の育成にも力を入れており、循環型無農薬露地栽培・農福連携・6次産業化・スマート農業による経営モデルを全国へ発信。

- 事業所への年間支払額は2千円(R4)から530千円(R5)に増加。
- 施設外就労の年間のベ人数は26人(R元)から728人(R5)に増加。
- 食用バラの販路が急激に広がった結果、農業収入が当初の7,400千円(R元)から47,240千円(R5)に増加。
- 荒廃農地の借入れにより、農地面積が16a(R元)から50a(R5)に増加。
- 花きとして全国初となるノウフクJAS取得によりエシカル消費を意識する購買者に訴求し、収益が改善。
- メディアで取り上げられたことで、高級レストランなどからの引き合いが増え、販路が急速に拡大。
- 全国から視察が増加し、「農福連携×食用バラ」の認知が広がったほか、農福連携による食用バラの栽培を障害者就労施設5社が開始。

基本情報

設立:H23年

農福連携取組開始:R4年

取得認証等:ノウフクJAS

主力商品:(農作物)バラ (加工品)食用バラ加工品

特徴的な取組:有機農業、スマート農業



埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園

(埼玉県羽生市)



農業コースの生徒が農業者の指導による農産物の生産、企業等との連携による新商品の開発・販売を通じて、農業への知識・技能を深め、社会に貢献できる人材育成を目指す取組を実施。

概要

人を耕す

- 地域の生産者からそばやトマト栽培等の直接指導を受け、生徒自身のコミュニケーション能力の向上や、知識や技能の定着を実現。
- 生産した農産物を使った商品を生徒が企画立案し、地域の加工業者と連携して、加工品を製造。

地域を耕す

- 開校当初より5戸の農家から学校周辺の遊休農地を借用。実習で年間を通して農産物を生産しており、生徒たちの技能向上に寄与。
- 地域飲食店・学校給食関係からの依頼で、モロヘイヤを栽培・提供するほか、規格外の農産物を活用した商品の開発・販売を実施。

未来を耕す

- 地域の特産品を活かした「モロヘイヤうどん」やビールの製造等、地元企業や行政、JA、農業高校等と連携した商品開発により、障害者の就労の場を設けることと同時に、フードロス問題の解消や付加価値の向上も実現。
- 近隣農家、JA、県農林振興センター、盆栽家等、様々な専門家による出前授業を実施。

成 果

- 農産物の年間売上高は取組開始当初の20万円(H19)から90万円(R5)へ増加。
- 遊休農地36.7a(R5)を管理し、農地の維持に寄与。
- 農業実習を通して、2年生以降、作業機械の取扱いを学ぶとともに、小型系建設機械免許を11名が、フォークリフト資格を17名が取得。
- 生徒が校内外のイベント販売により、加工品にした時の付加価値の向上も同時に体験することで、社会に提供する喜びと責任感を体感。
- 県農林振興センターと連携し、R2年にS-GAP認証を取得。農作業を展開する上で安全面での生徒の意識向上に寄与。

基本情報

設立:H19年

農福連携取組開始:H19年

取得認証等:S-GAP※埼玉県独自のGAP

主力商品:(農作物)モロヘイヤ、トマト、いちご
(加工品)にんにく味噌、ビール



◀ホームページ

株式会社 JAぎふはっぴいまるけ

(岐阜県岐阜市)



**JAぎふの特例子会社として、荒廃農地での農業再生に向けた取組、
ユニバーサル体験農園の実施、
地域の企業と連携した特產品の開発などで地域に貢献。**

概要

成 果

人を耕す

- 雇用する障害者18名は、農作物の栽培、えだまめ選果場、産直市場等で勤務。個性を發揮できるような人材配置と、定期面談の実施等により雇用の安定を実現。
- 金融事業も行うJAの子会社である特性を活かし、社員の資産管理等の相談を受ける。社員農業研修や各種資格取得の奨励もを行い、働きたくなる職場づくりを実践。

地域を耕す

- JAぎふ女性部から「まめなかな味噌」加工事業を引き継いだほか、地域の伝統野菜である「まくわうり」の生産や荒廃農地の除草作業の請負等、地域農業の維持に貢献。
- 障害者の社員が栽培指導するユニバーサル体験農園「まるけふあーむ」の実施や、特別支援学校から実習生の受け入れ等、精力的に農福連携を推進。

未来を耕す

- JAぎふ及びぎふ農福連携推進センターと連携し、自社の岐阜県農業ジョブコーチが、農家と福祉事業所のマッチングを支援するほか、岐阜刑務所と連携し、受刑者に対する農業指導も実施。
- 冷凍いちごや味噌、ハイビスカスティーなど、地域の農産物を活用して6次化商品を開発。

基本情報

設立:R2年

農福連携取組開始:R2年

主力商品:(農作物)にら、まくわうり、じゃがいも、さつまいも、さといも、米等
(加工品)冷凍いちご、まめなかな味噌、ハイビスカスティー、岐阜ずんだ大福
特徴的な取組:スマート農業、ユニバーサル農園



社会福祉法人 ステップ・ワン

(静岡県御殿場市)



**障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。
地域のスーパーとの取引拡大により、
第2農場を建設するなど規模拡大を実現。**

概要

人を耕す

- 58名の利用者のほとんどが農業に従事し、H24年から水耕栽培を導入。
- 水耕栽培により安定出荷を実現し、毎日600～1,000株を地域のスーパーに出荷。
- 利用者数は倍増し、すべての作業ができる利用者（エキスパート）を育成して職員不在時の作業を確保。3名は一般企業に就労。

地域を耕す

- 水耕栽培ではリーフレタスを中心に、R5年には第2農場を設立し、サンチュやルッコラなどを通年で栽培。地域イベントや食育活動にも参加。
- 担い手が高齢化した茶畠の管理を請け負い、障害者が作業を行い、茶葉を販売して工賃向上を目指す。新たに粉茶やクッキーも開発。
- 農福連携を開始以来、静岡県内で福祉モデルとして多くの講演を行う。

未来を耕す

- 商品の品質向上に向けて、消費者目線を重視し、商品規格やパッケージングについての研修を実施。
- 御殿場市内の学校給食センターにリーフレタスを納品。

成 果

- 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額は、取組開始当初の8,000円/人(H9:15名)から60,000円/人(R5:40名)へ増加
- 農産物の売上高は取組開始当初の6,000千円(H9)から19,438千円(R5)へ増加。
- 地域のお祭りや農福マルシェ、市役所マルシェ等に積極的に参加。近隣の幼稚園とは夏野菜の苗を「お買い物ごっこ」形式で販売し、食育を促進。
- 毎日同じ作業ができる環境（水耕栽培）を整備することで、生産性が向上。
- 茶葉を粉末にした6次化商品などを開発・販売。

基本情報

設立:H18年

農福連携取組開始:H24年

取得認証等:しづおか農林水産物認証

主力商品:(農作物)リーフレタス、サンチュ、ルッコラ 等
(加工品)粉茶、クッキー、食パン、濃厚茶みつ、レタスふりかけ



◀ホームページ

おぐにまち

社会福祉法人 小国町社会福祉協議会

(熊本県小国町)



荒廃農地を活用した大豆栽培、豆腐製造、おからを餌にした養鶏事業、食肉加工、直売所やレストランの運営等の多角化により、障害特性に応じて働ける場を創出。

概要

成 果

人を耕す

- 希少大豆の栽培、鶏卵事業、食肉加工、OEM提携による納豆・味噌の販売、シフォンケーキ等の製造販売、「農福連携レストラン」や農産物直売所の運営等、多彩な作業工程と販路拡大により、障害者の所得向上を実現。
- 作業工程ごとのリーダー配置により役割分担を明確にするとともに、障害特性に応じてわかりやすい指示・提示を行うことなどにより、安全や健康管理に努め、働きやすい職場環境を維持。

地域を耕す

- 小国町で発見された在来種「おぐに黒大豆」を継承して量産化。きな粉や地元レストランの食材として活用。
- 小国町産業課とも連携し、農福連携事業を通じた雇用創出と地域活性化の取組を実施。

未来を耕す

- 豆腐等製造時に排出されるおからやレストランでの残飯、規格外の野菜などを餌に鶏卵事業を開始。鶏糞は、荒廃農地に散布。廃鶏は、食肉用に加工して活用する循環型農業を確立。
- 地域の高齢者と障害者それぞれが支え合う地域共生社会の仕組みを実現。

- 就労継続支援A型事業所の平均賃金月額は、取組開始当初の45,058円/人(H28:4名)から120,611円/人(R5:16名)へ増加。
- 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額は、取組開始当初の10,000円/人(H28:19名)から25,316円/人(R5:36名)へ増加。
- 農産物の売上高は取組開始当初の22,604千円(H28)から127,399千円(R5)へ増加。
- 荒廃農地借用面積は、取組開始当初の1ha(H28)から10ha(R5)へ拡大。
- 荒廃農地を活用した希少大豆の栽培で、大豆製品の6次産業化とブランド化に取り組むことで収益性や生産性の向上を図る。
- 製材所に2名、県立高校に1名の一般就労を実現。就労継続支援B型事業所からA型事業所に3名が移籍。
- 「農福連携レストラン」、平飼い農園、移動販売車、食肉加工事業と年々事業を拡大。
- 交流人口は取組開始当初の3,000人からR5年には148,000人に増加。

基本情報

設立:H2年 農福連携取組開始:H28年

取得認証等:認定農業者

主力商品:(農作物)大豆(すずかれん、おぐに黒大豆)、鶏卵 等

(加工品)納豆、味噌、シフォンケーキ、豆乳プリン 等

特徴的な取組:環境保全型農業



ちくふくしょうれんけい

竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践

(鹿児島県大崎町)



**障害者就労施設、加工業者等が連携し、
地域の高齢者や障害者が放置竹林の整備や竹炭の製造を行うモデルを創出。
竹炭を土壤改良材として活用したさつまいもの加工により収益化を実現。**

概要

人を耕す

- 竹林整備に参加する障害者の工賃は、全国平均を上回る時給600円(R5)に向。参加者からは「考えながら竹を切るというところが楽しかった」などの声があり、障害者の働きがいに寄与。
- 障害者や高齢者等のべ267名(R5)が放置竹林の整備や竹材加工の担い手として活躍。
- 「竹林整備」という共通の仕事をすることで、協働が促進される包摂の空間を創出。

地域を耕す

- 無価値とされた竹を竹炭として販売するほか、特産品「愛生会の干し芋」の製造販売によりさつまいもの収益性を高め、大崎町への経済効果の向上に貢献。
- 輸入物価高騰を背景とした畜産農家における敷料としての竹炭活用のほか、食品加工業者や酒造会社と連携した商品開発等を行い、地域活性化に貢献。
- R5年からは幼竹を塩蔵メンマにする取組をスタート。

未来を耕す

- 施設利用者や地域住民が、放置竹林の拡大という社会的課題を解決するという共通の目標を共有し、必要な存在としての「役割」を取得・遂行・承認される機会を創出。
- 県広報、新聞への掲載等、積極的な情報発信により、他地域への普及展開を目指す。

成 果

- 参加した障害福祉事業所数は、取組開始当初の2事業所(R4)から3事業所(R5)へ増加。
- 竹林整備に関わる障害者のべ人数は267人/20日。
- 放置竹林の解消面積は、取組開始当初の30a(R4)から60a(R5)へ増加。
- 竹炭の散布面積は、取組開始当初の5a(R4)から33a(R5)へ増加。
- 地域の高齢者からは、「今後も来てほしい」などの声があり、竹林整備に参加する障害者を仲間として受け入れている。
- 干し芋の売上高は、256,000円(R4)から854,800円(R5)に増加。
- ひきこもりの状態にある者が、2か月間参加し、その後農業関連会社に一般就労。
- 障害者や高齢者等が放置竹林の整備や竹材加工の担い手となり、放置竹林の解消を実現。
- 竹福商連携による竹の資源化モデルが薩摩川内市、山口県山口市にも波及。

基本情報

設立:R4年 農福連携取組開始:R4年

主力商品:(農作物)さつまいも、たけのこ

(加工品)干し芋、焼酎、塩蔵メンマ



◀ホームページ

とうかつ
JAちば東葛 農業協同組合
(千葉県柏市)



組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、
作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。
JAの部会で初となるノウフクJASを取得。

概要

成果

人を耕す

- 農家と福祉事業所の間を調整し、労働に見合った作業単価を決定。作業難易度をグラフ化し、各事業所のスキルに合った仕事を提供。
- JAの青壮年部会での農福連携の説明会を通じて、農家の理解が深まり、参加者が増加。
- 地域包括支援センターと共同して、障害者だけでなく、ひきこもりの状態にある者や犯罪をした者も受け入れられるよう環境を整備。

地域を耕す

- 労働力が減少する中で、管内で農福連携に取り組む農家にとって、障害者は必要不可欠な存在になっている。
- 農福連携に取り組む農家は、福祉事業所と協力して地域イベント実施、加工品開発等に取り組むほか、生涯大学校や高校と連携し、幅広い世代を対象とした農福連携の啓発活動を実施。

未来を耕す

- 農福連携のマッチングにより、地域農業の安定化につながっていることが、メディアで取り上げられるようになり、JAグループ内や市町村等によるセミナーでの発表機会が増加。
- ノウフクJASを取得し、販路拡大を強化。

- マッチングへの参加者は取組開始当初の1事業所/2戸から、R5には19事業所/15戸へ増加
- マッチング件数は取組開始当初の1件(R3)から80件(R5)に増加。
- 県担当手支援課や農業事務所、農業者支援センターとも共に農福連携の見学会を実施し、40名が参加。農家から新たにマッチングを希望する声が上がった。
- 対外的な活動が増加し、見られる事が増えた結果、農家も福祉事業所も「注目されているからもっと頑張ろう」という気持ちで団結力が高まり、作業のスキルアップを実現。

基本情報

- 設立:H22年
農福連携取組開始:R3年
取得認証等:ノウフクJAS
特徴的な取組:中間支援



岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

(岐阜県岐阜市)



農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。
生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、
生徒が栽培しやすい特色のある「ルビー色の蕎麦」や「イタリア野菜」を生産。

概要

人を耕す

- 「～恋する蕎麦～初霜ルビー」を製品化。霜が降りる時期までじっくり完熟させ、ポロっと落ちるそばの実を丁寧に手刈りすることで、多くの障害者が関わることが可能。
- 高付加価値の農産物「イタリア野菜」の生産・販売を通して、子どもたちの自信と責任感を創出。

地域を耕す

- 「イタリア野菜」栽培により地域との連携を深めており、本場と同じ懐かしい野菜として県内在住のイタリア人シェフが絶賛し、学校の野菜を使った料理を提供。
- 岐阜古来の製麺技術を採用したことによる「道三めん」のPRや「イタリア野菜」栽培の発信等、地域活性化に貢献。

未来を耕す

- 農業の栽培用アプリ「アグリハブ」を使った、遊休農地等でのルビー色のそば及び「イタリア野菜」の栽培は大きな話題に。
- 種子の提供を受けるなど、県外の企業がサポート。

成 果

- 農産物売上は14.6万円(R4)から15.3万円(R5)に増加。
- 農地面積は4a(R4)から6a(R5)に増加。
- 地域の農家等の外部連携数は4件(R5)、マスコミ情報発信数は6件(R5)。
- そば及び「イタリア野菜」栽培を通して、障害を持つ子どもたちの笑顔がこぼれる素敵な農業時間を創出。
- 一面のルビー色のそば畑は、誰もが足を止める「映えスポット」として話題になり、地域活性化に貢献。
- オンラインのストーリーを持つルビー色のそば栽培や、珍しい「イタリア野菜」栽培を通して、子どもたちが主体的に農業を行い、地域の新しい担い手として活躍。

基本情報

設立:H20年

農福連携取組開始:R4年

主力商品:(農作物)そば、イタリア野菜

特徴的な取組:スマート農業



◀ホームページ

佐賀県



**農業者と障害者就労施設のマッチングや
その後のフォローにより農福連携が県全域に拡大。
農業者の理解促進やマッチングマニュアルの作成により中間支援の質を向上。**

概要

成果

人を耕す

- 県農業経営課と県障害福祉課にコーディネーターを、県内6つの農業振興センターに農福連携担当者を配置し、JAと連携して福祉事業所と農家のマッチングを実施。
- 農福連携のコーディネーターが障害者に適した作業を選定し、作業時には一緒に作業することで、適切な支援・助言等を実施。

地域を耕す

- 地域の自立支援協議会就労支援部会やJAの生産部会等への定期的な研修や説明会を通じて、農業関係者と障害者就労施設の理解が深まり、良好なマッチングが促進。
- 県内に新たな協議会が発足し、農福連携の推進、中間支援の質の向上に寄与。
- 特別支援学校の教師、保護者、生徒への農福連携の理解促進に向けた取組を実施。

未来を耕す

- 県主導で中間支援体制を確立し、農家のニーズ聴取、作業内容の確認と単価の設定、マニュアル作成、契約書の作成、作業完了後の記録作成等、きめ細かな支援を実施。本スキームは他県の農福連携に取り組む協議会などにも共有。
- 県として農福連携技術支援者研修を開催し、専門人材を育成。
- 意欲がある農家に対し、JGAPや6次産業化の認証取得を支援。

- マッチングへの参加経営体は、農業経営体数が取組開始当初の14戸(R3)から39戸(R5)へ、福祉事業所数は、13事業所(R3)から38事業所(R5)へ増加。
- マッチング件数は、取組開始当初の25件(R3)から67件(R5)へ増加。
- マッチング実績による売上高は、取組開始当初の480万円(R3)から660万円(R5)へ増加。
- マッチング後も農家と福祉事業所双方の信頼関係が深まるよう支援し、農家や利用者からも好評。
- 出荷調製等の作業を福祉事業所に依頼したことにより、品質向上、生産性向上に寄与。
- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。スキームが全国の農福連携に取り組む協議会・団体に共有され、中間支援の質の向上に貢献。

基本情報

農福連携取組開始:R3年

主力商品:(農作物)きゅうり、アスパラガス、みかん等

特徴的な取組:中間支援



社会福祉法人 めぶき会

(栃木県小山市)



観光農園を営むグループ企業のいちご栽培を請け負うとともに、
自社のキッチンカーやクレープ店での活用により、
高収益を実現。

概要

人を耕す

- 体験の段階で多種多様な作業を試してもらい、その結果を踏まえて作業を決定。
- 指導員のもとで、作業ごとのチームを編成。能力の向上レベルに応じては、グループの農業生産法人へ農業従事者として、または社会福祉法人へ指導員として就労。

地域を耕す

- 施設外就労を行うことによりグループ企業である観光農園の生産性が大幅に向上了。
- 農業者の高齢化に伴う荒廃農地の取得によって、自ら農業を開始。地域の農業に貢献するとともに、障害者の就労機会を拡大。
- 地域の幼稚園等のイベントに積極的に参加し、自社農園で採れいちごを使った商品の提供を行っているほか、特別支援学校の体験実習なども積極的に受け入れ。

未来を耕す

- 農業から製造・販売の6次産業化まで社会福祉法人で実施。
- 行政や地域住民との交流を積極的に行うことにより、障害の有無に関係なくみんなが協力して地域づくりを行うことができるよう発信。
- R6年にノウフクJASを取得。

成 果

- 就労継続支援A型事業所の平均賃金月額は、8万円/人(R3:18人)から9万円/人(R5:22人)へ増加。
- 農産物の売上高は取組開始当初の1,000万円(R3)から1,400万円(R5)へ増加。
- それぞれの長所短所をみんなで補う適材適所の作業により、障害者の自信を創出。
- 障害者だけでなく、ボランティアや指導員として、定年を迎えた高齢者や地域の方にも農業に参加してもらうことで、地域での交流が進展。
- キッチンカーの営業、クレープショップ開設、動物広場や無人販売所の開設など、事業規模を拡大。

基本情報

設立:R2年

農福連携取組開始:R2年

取得認証等:ノウフクJAS

主力商品:(農作物)いちご



◀ホームページ

社会福祉法人 フォーレスト八尾会 おわらの里

(富山県富山市)

やつおかい



**地域に伝わる桑栽培のリブランディングとして、
伝統工芸である和紙のパッケージによる商品開発、
剪定枝のバイオマスプラスチック化等により工賃を向上。**

概要

成 果

人を耕す

- 農山漁村振興交付金(R3年度)を活用し、ビニールハウスを設置。栽培したエディブルフラワー、マイクロリーフの売上が順調に伸び、利用者の平均工賃が増加。
- 農作業マニュアルを作成し、明確化、細分化することで多くの障害者が農作業に携われるようになったほか、6次産業化を行うことで障害の種別を問わず、個々の特性に応じて作業できるため、多種多様な形で障害者が農業に関わることができる体制を実現。

地域を耕す

- 農作業の依頼や米粉商品のOEMの受入れにより、地域と協力することで、地域の農業に貢献。
- 中山間地域の荒廃農地で桑の栽培・管理をすることで、景観の維持、鳥獣被害対策に寄与。
- 高齢化で担い手のいない農地を借り受け、希少品種の水稻(シシクワズ・神丹穂)を栽培して、しめ飾りを製造・販売、日本の伝統文化を継承。

未来を耕す

- 企業と協働し、廃棄していた桑の剪定枝のチップとプラスチックを融合し、持続可能な商品開発を行うと共に伝統工芸「越中和紙(八尾和紙)」によるプレミアムパッケージを使用した桑茶を販売。地域の伝統文化発信・継承に貢献。
- 地域の病院で買い物が困難な高齢者へ総菜を販売するほか、地域の企業と連携し、ファーマーズマーケットを開催して農家の販売を支援。

- 利用者の平均工賃月額がR元年からR5年で約2倍に増加。
- 飲食店向けの希少性がある農作物を栽培することで売上(農園関連)が809万円(R元)から898万円(R5)に増加。
- 桑商品をリブランディング(パッケージデザインの刷新、商品の改良等)し、「八尾の桑」を地域ブランドとして認知・定着させる取組を行うことで、売上(桑関連)が164万円(R元)から439万円(R5)に増加。
- 地域の歴史や文化を背景とした商品のブランド化を図り、多くの人が関心を持つことで、農福連携の認知度向上とともに地域の伝統文化の継承に寄与。
- 栽培したマイクロリーフ・エディブルフラワーが県内のミシュランガイド掲載店で使用され、マスメディアやSNSで紹介。
- セミナーやマルシェを開催することで地元企業、自治体など縁が広がり、農福連携の認知度向上、販路拡大を実現。

基本情報

設立:H9年

農福連携取組開始:H9年

主力商品:(農作物)桑、マイクロリーフ、エディブルフラワー 等

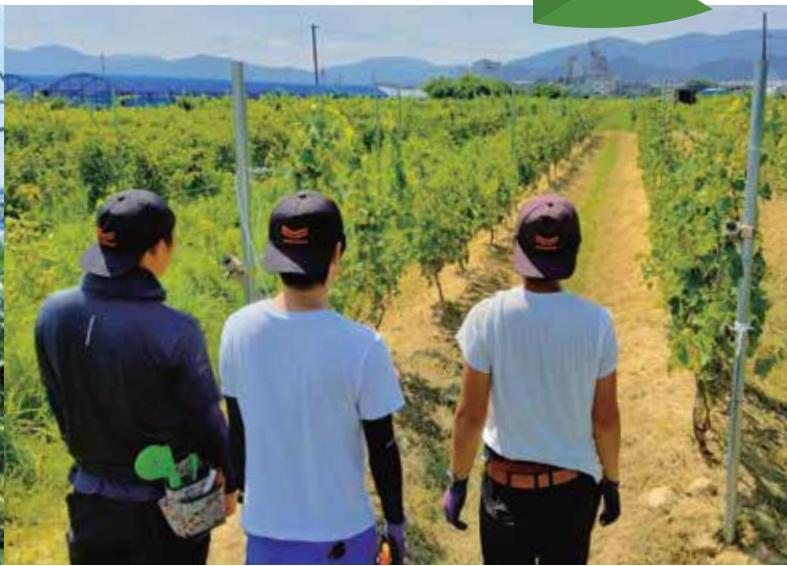
(加工品)くわ葉茶、桑の菓子 等

特徴的な取組:有機農業、自然栽培、環境保全型農業



株式会社 ケアプロフェッショナル

(三重県伊勢市)



放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参画できる場として農業参入。ワイン専用欧洲ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

概要

人を耕す

- 製造するワインやジャム等はすべて自社開発製品であり、原材料もすべて自社栽培しているため、中間マージンを削減でき、高い利益率は工賃向上に寄与。
- 一般就労の準備としてビジネス研修やソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施し、障害者の積極的な学びの機会を創出。

地域を耕す

- ワインぶどう栽培はマニュアル化・ルーティーン化しやすく、健常者と障害者の受け持つ仕事の役割分担がしやすいため、生産性の向上を実現。
- 1haの荒廃農地を有効活用し、ワインぶどうという新たな農作物を栽培する挑戦は、地域の農林水産業の刺激となり、その発展に寄与。

未来を耕す

- ワインぶどう栽培・ワイン醸造の期間は3月～11月のため、さつまいも収穫、干し芋加工も組み合わせて年間を通じた仕事のサイクルを設計。
- 真珠貝の貝殻パウダーや廃棄貝肉を譲ってもらい発酵させ、たい肥化し、ば場に散布することで、地域企業と連携した「ごみゼロ計画」に貢献。

成 果

- 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額は、12,000円/人(R3)から18,000円/人(R5)へ増加。
- 作業に関わる作業者数は、取組開始当初の2人(H29)から11人(R5)へ増加。
- 作付け本数は、取組開始当初の120本(H29)から4,100本(R5)へ増加。
- 農地面積は、取組開始当初の0.08ha(H29)から1ha(R5)へ増加。
- 農福連携がきっかけで伊勢市とワイン発祥の地ジョージアとの交流に発展。
- すべて自社栽培・自社製造のため、個々の持つ障害特性に応じて仕事を選択でき、幅広い障害者の活躍の場と能力開発の機会を創出。
- ワインぶどう栽培は新聞等で「農福連携による初の純伊勢産ワイン」として取り上げられ、農業者から農福連携の相談を多数受けるなど、農福連携の輪が拡大。

基本情報

設立:H25年

農福連携取組開始:H29年

主力商品:(農作物)醸造用ぶどう、さつまいも、ブルーベリー(加工品)ワイン、干し芋、ブルーベリージャム



◀ホームページ

うえのおか 社会福祉法人 上野丘さつき会

(兵庫県神戸市)



S56年から農福連携を開始。

地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、
草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・搬出等も実施。

概要

成 果

人を耕す

- 職業訓練として50年以上の実績があり、現在は、知的障害者35名が農作業を実施。
- 草刈班、米作業班、調整班、加工班とチームを組んで活動。班内にはリーダーを設けることなく、誰もが自分の役割を果たせるように工夫。

地域を耕す

- 地域の森林組織から依頼を受け、土手や法面の整地、水路の溝切り、竹林の伐採作業を実施。荒廃農地等での作業受託は水稻約13ha、野菜約1ha。
- 公益財団法人の助成金を活用してライスセンター機材を設置したことで、稲作全般の作業を行うことができるため、地域から依頼も増え、地域の農地の維持に貢献。
- 水田活用の直接支払交付金を活用して、白大豆を生産。

未来を耕す

- 地元の田畠の維持管理をする上で隣接する竹山林の整備作業に役立てるため、共同募金会の配分金を活用してウッドチッパーを導入し、樹木のチップ化や竹の堆肥化を行う。
- 「米粉俱楽部」に登録し、米粉を販売。地域の喫茶室、カフェから地産地消を推進する目的で米粉が使用されるなど、販路が拡大。

- 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額は、取組開始当初の5千円/20名(S56)から18.7千円/35名(R5)へ増加。
- 農産物の売上高は取組開始当初の80万円(S56)から2,120万円(R5)へ増加。
- 農地面積は、2ha(S56)から14ha(R5)に増加
- 神戸市都市局や社会福祉協議会主催のマルシェに積極的に参加し、自家栽培野菜を販売。利用者自身が対面で販売することで農福連携の発信につながるほか、利用者の生きがいを創出。また、地域からの要望に応える形で、マルシェの参加を継続しており、収益も向上。
- JA女性会との連携による「北神みそ」の原材料の白大豆生産及び、社会福祉協議会との連携による「ごはんプロジェクト」、「教育ファーム」の設置による子どもたちへの食育など、地域活性化に寄与。

基本情報

設立:S43年

農福連携取組開始:S56年

主力商品:(農作物)じゃがいも、たまねぎ、白大豆、米、すいか
(加工品)米粉、米粉を利用した穀物パンケーキミックス粉

特徴的な取組:環境保全型農業



NPO法人 ライヴ

(鳥取県米子市)



**地域の漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。
作業請負から水産加工品製造・販売への転換で工賃向上を実現。
製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。**

概要

人を耕す

- 開始当初はわかめ干し作業の請負作業が売上を中心だったものを、自分たちで行う水産加工品の製造・販売にシフトすることで売上高が100倍以上に増加。
- 様々な決め事に際して職員が利用者に伝えるだけでなく、随時ミーティングを開き、今している作業は何のための作業なのかを説明してもらうことで自主性を育成。

地域を耕す

- 主力商品の「板わかめ」は山陰地方の名産であるが、製造所が減少しており、地域の漁業者から製造方法を教えてもらうことで、地域の食文化の継承に寄与。
- 地域の漁協からの提案をきっかけに、地域で初めて採れるようになったひじきを原料にした新商品「乾燥ひじき」を開発し、販売を開始するなど地域水産業の維持に貢献。

未来を耕す

- 添加物を一切使用せず、素材の風味を大切にした商品づくりを実施。
- 新設した水産加工施設では、他の福祉事業所の利用者に、水産加工作業の一部を委託することで、連携する事業所数を増やし、水福連携の輪を拡大。

成 果

- 売上増加に伴い、取組当初の平均工賃月額15,700円/人(H23)から約2倍の29,054円/人(R5)に増加。
- 水産加工に関わる障害者数は取組当初の6人(H23)から23人(R5)に増加。
- 水産物製造による売上高が取組当初の8万円(H23)から851万円(R5)に増加。
- 職員のサポートなしで完全に製造を任せることのできる利用者もあり、県平均を大きく上回る月5万円以上の工賃を実現。
- 地域の奉仕作業への参加や、特別支援学校や中学校等の職業体験の受け入れ等により、地域との交流や活性化に寄与。
- 水福連携の取組が地域の新聞やニュースで掲載。

基本情報

設立:H23年

農福連携取組開始:H23年

主力商品:(水産加工品)板わかめ、乾燥ひじき、乾燥ホタルイカ

特徴的な取組:水福連携



◀ホームページ

社会福祉法人 ハイジ福祉会 フラワー・パッケージセンター

(福岡県八女市)



**JAの部会との委託契約により花きのパッケージセンターを運営し、
地域農業の維持・発展に貢献。
認定農業者となり、自社生産も実施。**

概要

成 果

人を耕す

- フラワー・パッケージセンター（以下「FPC」という。）では、フラワー・パッケージ作業・ファーム作業と障害の種別や特性に分けて作業を分散。1名は責任者として終日雇用。
- 就労継続支援A型事業所の給料は5年連続で向上。給料以外のハウスの建設・修理等の必要経費も福祉収入には一切頼らず就労支援事業費で支出し、安定した収益も確保。

地域を耕す

- FPCがあることで、農家は栽培に専念することができ、栽培面積の拡大につながっているほか、商品の検査体制の一元化により、農家間の選別のバラツキが無くなり、有利販売に寄与。
- 荒廃農地を購入し、ミニトマト、ガーベラ等の栽培に取り組んでおり、農地の維持に貢献。
- 八女市が主導する農福連携の部会にも参加し、地域の農福連携の推進にも貢献。

未来を耕す

- 福祉施設・JA・農家がタッグを組み、本来JAが運営するFPCを福祉施設が運営。
- 刑務所からの依頼で受刑者への農福連携の事例紹介や出所後の福祉サービスの情報提供を行うほか、放課後等デイサービスの児童を受け入れ、収穫体験等を実施。
- トマトの規格外品を使用したトマトソースを開発し、ふるさと納税の返礼品としてや、直売所等で販売。

- 就労継続支援A型事業所の平均賃金月額は、取組開始当初の60,527円/人(H26:4名)から88,070円/人(R5:16名)へ増加。
- 売上高は、取組開始当初の471万円(H26)から4,535万円(R5)へ増加。
- 就労継続支援A型事業所の利用者2名が高齢者施設への一般就労を実現。
- 農福連携に取り組む障害者を見て理解が深まり、農家やJAからの作業依頼も年々増加。
- トマト生産者全24名の中で、坪当たりの収量・販売高が1位となり、JA単独の評価でトリプルAの評価を獲得。
- FPCの運営により有利販売につながったことなどで、当初120万本程度であったガーベラが334万本まで増加。

基本情報

設立:H19年

農福連携取組開始:H26年

取得認証等:認定農業者

主力商品:(農作物)ガーベラ、ティップウユリ、トマト

(加工品)トマトソース

特徴的な取組:パッケージセンターを福祉施設が運営



株式会社 沖縄UKAMI養蚕

(沖縄県今帰仁村)



**荒廃農地や廃校を活用し、「沖縄エリ蚕」の大規模養蚕を実施。
繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、
スキンケア用品への加工や輸出等により工賃を向上。**

概要

人を耕す

- 養蚕の作業である、サナギと繭(シルク)との分別作業を就労支援B型事業所等と連携して行い、障害者の活躍の場を広げているほか、積極的に高齢者を雇用。
- 6次産業化により、「沖縄シルク」をスキンケア商品として加工し、ブランド化して輸出することで売上を伸ばし、障害者等1名あたりの平均工賃月額は沖縄県の平均以上を維持。

地域を耕す

- 廃校を養蚕の作業場として活用。H25年から荒廃農地の再生に取り組み、現在、2.5haを「沖縄エリ蚕」の餌を栽培するほ場として借り受けことで、荒廃農地の解消に貢献。
- 高齢農家や村から農地を引き受けてほしいといった要望が増加。県内の特別支援学校と連携し、養蚕・農作業体験を実施する企画を考案するなど、地域内交流を推進。

未来を耕す

- 自社独自の技術により国内で唯一、「沖縄エリ蚕」の大規模養蚕に成功。採れた繭をパウダー化し、配合したスキンケア用品の製造販売のほか、「沖縄エリ蚕」のサナギを用いた機能性食品素の開発、動物用医薬品につながるタンパク質生産等の研究開発を実施。
- 荒廃農地の新たな利活用のため大手企業と連携。地球温暖化対策として、一般的な植生の20倍のCO₂を吸収するとされるモリンガを植林。

成 果

- 農産物の売上高は1,998万円(R5年度)に、荒廃農地の活用は1.3ha(H28年度)から2.5ha(R5年度)に増加。
- 就労継続支援B型事業所の平均工賃月額は、取組開始当初の1万円/人(H28:45名)から4.4万円/人(R5:72名)へ増加。
- 絹産業の非纖維分野への進出に加えて、6次産業化による「沖縄シルク」のブランド化及び輸出を行い、障害者や高齢者の活躍の場の創出、健康づくり、所得向上を実現。
- 特別支援学校の農作業体験や収穫体験の受入れ、学生向けの講義やシンポジウムの開催を通じ、農福連携の輪の広がりに貢献。

基本情報

設立:H18年

農福連携取組開始:H28年

取得認証等:6次産業化認定事業者

主力商品:(加工品)スキンケア用品

特徴的な取組:6次産業化、輸出



◀ホームページ

ノウフク・アワード受賞一覧

ノウフク・アワード2020

グランプリ

社会福祉法人 白鳩会 花の木農場 (鹿児島県南大隅町)

審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人 南高愛隣会 (長崎県雲仙市)

審査員特別賞「地域を耕す」

社会福祉法人 青葉仁会 あおはにファーム (奈良県奈良市)

審査員特別賞「未来を耕す」

株式会社 ウィズファーム (長野県松川町)

審査員特別賞

松本ハイランド 農業協同組合 (長野県松本市)

特定非営利活動法人 HEROES (京都府京都市)

香川県社会就労センター協議会 (香川県高松市)

全国農業協同組合連合会 大分県本部 (大分県大分市)

優秀賞

一般社団法人 松島のかぜ (宮城県松島町)

社会福祉法人 こころん (福島県泉崎村)

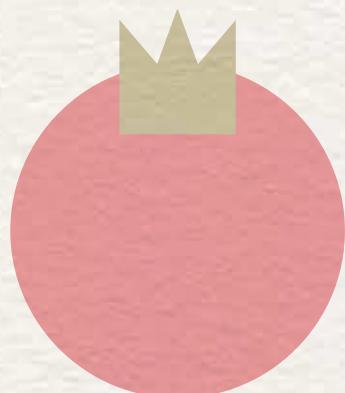
埼玉福興 株式会社 (埼玉県熊谷市)

認定・特定非営利活動法人 UNE (新潟県長岡市)

特定非営利活動法人 ピアファーム (福井県あわら市)

株式会社 シルクファーム (鳥取県米子市)

社会福祉法人 喜和会 障害者支援施設太陽の里 (島根県出雲市)



ノウフク・アワード2021

グランプリ

京丸園 株式会社 (静岡県浜松市)

さんさん山城 (京都府京田辺市)

審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人 ゆづりは会 菜の花 (群馬県前橋市)

審査員特別賞「地域を耕す」

特定非営利活動法人 立野福祉会 (新潟県佐渡市)

審査員特別賞「未来を耕す」

株式会社 菜々屋 (徳島県徳島市)

審査員特別賞

安芸市農福連携研究会 (高知県安芸市)

優秀賞

社会福祉法人 誠友会 工房あぐりの里 (青森県おいらせ町)

特定非営利活動法人 一粒舎 (千葉県木更津市)

株式会社 イシイナーセリー (三重県鈴鹿市)

株式会社 いづみエコロジーファーム (大阪府和泉市)

社会福祉法人 一麦会 ソーシャルファームもぎたて (和歌山県紀の川市)

一般社団法人 STEP UP CoCoRo事業所 (宮崎県宮崎市)

株式会社 リーフエッヂ あまみん (鹿児島県龍郷町)

フレッシュ賞

新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク (東京都新宿区)

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎 (長野県筑北村)

CuRA! (新潟県新潟市)

株式会社 JAぎふはっぴいまるけ (岐阜県岐阜市)

遊士屋 株式会社 (三重県伊賀市)

うりずんファーム ウィルチャーファーム (沖縄県沖縄市)

チャレンジ賞

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団 (青森県平内町)

福島県立大笹生支援学校 (福島県福島市)

帝人ソレイユ 株式会社 我孫子農場 ボレボレファーム (千葉県我孫子市)

社会福祉法人 進和学園 しんわルネッサンス (神奈川県平塚市)

社会福祉法人 太陽福祉会 菜の花作業所 (和歌山県御坊市)

社会医療法人 正光会 さんさん牧場 (島根県益田市)

ノウフク・アワード 2022

グランプリ

農事組合法人 共働学舎 新得農場 (北海道新得町)
社会福祉法人 ゆづりは会 菜の花 (群馬県前橋市)

準グランプリ「人を耕す」

社会福祉法人 朋友 就労継続支援B型事業所 Cotti菜 (三重県鈴鹿市)

準グランプリ「地域を耕す」

社会福祉法人 パステル 多機能型事業所CSWおとめ (栃木県小山市)

準グランプリ「未来を耕す」

社会福祉法人 月山福祉会 (山形県鶴岡市)

優秀賞

株式会社 サンファーマーズ (静岡県静岡市)
株式会社 笠間農園 (石川県内灘町)
株式会社 DAI 就労継続支援 A・B型 それいゆ (岐阜県関市)
社会福祉法人 有田つくし福祉会 早月農園 (和歌山県有田川町)
社会福祉法人 E.G.F のんきな農場阿武事業所 (山口県阿武町)
社会福祉法人 出島福祉村 (長崎県長崎市)

フレッシュ賞

有限会社 照沼農園 (茨城県水戸市)
社会福祉法人 土穂会 障害福祉サービス事業所 ピア宮敷第1工房 (千葉県いすみ市)
金沢市 農業協同組合 (石川県金沢市)
株式会社 ココトモファーム (愛知県犬山市)
三休一SANKYU一 (京都府京田辺市)
株式会社 和光ワールド (愛媛県伊予市)

チャレンジ賞

特定非営利活動法人 サトニクラス 就労継続支援A型サトニクラス酵房 (北海道月形町)
三陸ラボラトリ 株式会社 (岩手県大船渡市)
一般社団法人 イシノマキ・ファーム (宮城県石巻市)
株式会社 八天堂ファーム (広島県三原市)
大隅半島ノウフクコンソーシアム (鹿児島県大隅半島)
社会福祉法人 みやこ福祉会 (沖縄県宮古島市)

ノウフク・アワード 2023

グランプリ

株式会社 ウィズファーム (長野県松川町)
社会福祉法人 青葉仁会 (奈良県奈良市)

準グランプリ「人を耕す」

広島県立 広島特別支援学校 (広島県広島市)

準グランプリ「地域を耕す」

一般社団法人 THE CHALLENGED (福岡県久留米市)

準グランプリ「未来を耕す」

有限会社 あわら農楽ファーム (福井県あわら市)

優秀賞

有限会社 F・F磯崎 (宮城県松島町)
NPO法人 ユアフィールドつくば (茨城県つくば市)
株式会社 LSふあーむ (岐阜県岐阜市)
社会福祉法人 まつか福祉会 多機能型事業所八重田ファーム (三重県松阪市)
株式会社 しんやさい (京都府京都市)
株式会社 おおもり農園 (岡山県岡山市)
社会福祉法人 博愛会 (大分県竹田市)

フレッシュ賞

株式会社 ファーストマインド 多機能型事業所ぴ～か～ぶ～WORKS (北海道札幌市)
ひらまつファーム (静岡県浜松市)
全国農業協同組合連合会 岐阜県本部 (岐阜県岐阜市)
一般社団法人 こうち絆ファーム (高知県安芸市)
株式会社 杉本商店 (宮崎県高千穂町)

チャレンジ賞

社会福祉法人 ゆうゆう (北海道当別町)
夢育て農園 (東京都世田谷区)
特定非営利活動法人 たかつき (大阪府高槻市)
一般財団法人 かがやきホーム (奈良県橿原市)
愛媛県立 伊予農業高等学校 生活科学科 食物班 (愛媛県伊予市)
一般社団法人 社会福祉支援協会 (福岡県福岡市)
合同会社 ソルファコミュニティ (沖縄県北中城村)

表彰式

2025年1月22日に三田共用会議所で開催されました。



グランプリ受賞：株式会社菜々屋



グランプリ受賞：一般社団法人STEP UP



お問い合わせ

農福連携等応援コンソーシアム事務局

■ 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話 03-3502-8111(内線5448)

メール noufuku@maff.go.jp

■ 一般社団法人日本基金

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-4 大京ビル松住町別館401号

電話 03-5295-0070 FAX 03-6206-0117

メール info@nipponkikin.org